



写真：カノハタ園主の防除風景。通常早朝に行っている防除ですが、この日はお茶の時間にかかって行っていたためバチリ。消毒作業を初めて見るスタッフも珍しい光景にこの場は撮影会のような感じでした。暑い中マスクやカッパをつけての作業は、薬の害よりも熱中症などの危険の方がありません。



年に2回、12月と6月発行、と思って始めたカノハタ通信ですが、年々発行が遅れ、今年は9月になってしまいました。せめてシャインマスカットと一緒にお届けしたいと思います。今回は、以前からお伝えしようと思っていたこの話題について...

### カノハタの防除のお話

お客様から時折、カノハタのくだものは「無農薬ですか？」と聞かれるときがあります。答えは「否」で、ならば減農薬か？ そうなるときもありますが、通常は標準通りです。標準は何かと言うと、山梨県で示している「防除暦」というカレンダーをもとにしています。これは散布の適切な時期・耐性菌リスクの回避・近年の発生状況を協議し、それを踏まえた薬品の選択などが盛り込まれ、毎年発行されるものです。これを参考にその年の傾向と園の状況に合わせて散布します。今年は乾燥しているからアブラムシが増えそうだな、とか、昨年パンプ病が出たからあの畑にはパンプの薬を重点的に薬を撒こう、などです。最近の農薬は「選択性」と言って、特定の病気や害虫だけに効果があるものが主流です。「何にでも効く」ものよりは成分的に弱いものとなります。弱いけれど、ピンポイントで効く薬を吟味して散布します。過剰な散布は、お届け時に残留する恐れがあるため、もちろんしていませんよ。

そもそも「防除」ってなに？ というと、「防」= 病気や虫が出ないように防ぐ、「除」= 出てしまった病気や虫を取りのぞくことです。つまり予防と手当ですね。ちょっと難しい話になりますが、防除は大きく3種類あります。「物理的防除」は防虫ネット・果樹袋の使用や病気の枝の切除など。「耕種防除」は枝葉の風通しをよくする・水はけをよくして病害菌の発生を防ぐ・病気に強い品種を選ぶ、など。「化学的防除」は発生予測に基づく効果的な農薬使用、となります。加えて最近では、害虫を食べる虫 = 天敵を使う「生物的防除」なんて言うものもあります。

例えば、葉が茂りすぎて昨年カイガラムシが大量発生してしまった！ ということは風通しを良くして（耕種防除）、カイガラをブラシでこすり落として（物理的防除）、再度つきにくくするために枝に薬を塗って（化学的防除）など複合的に防除しています。こうやって、くだもの樹たちが健やかな樹体を維持できるよう手助けをしているのです。人間と同じで、健康に育てば病気にもなりにくく、元気な子ども（= おいしい果実）も産めるというわけです。

まだまだ話はありますが、書ききれません。防除は奥が深いです。。。

ワールドワイドなカノハタ...? カノハタでは出荷よりも5・6月の生育期の方が作業量は多いため、ここ数年は山梨県外からもお手伝いに来てもらっています。今年の生育期のお手伝いメンバーはワールドワイドでした。韓国人のユンさん、ベトナム人のズンくん。二人とも自動車の運転もできるので助かりました。都会から来る方や若い人、外国人は運転免許を持っていなかったりあまり運転をしたことがない人が多い中、貴重な人材です。さらに、日本人でありながらイタリア在住のいけちゃんもイタリアワインのインポート事業を立ち上げたばかりで、日本のブドウ栽培も体験したという理由で短期作業に来てくれました。イタリアのブドウ栽培の話などはとても興味深く、日本の作業との違いなど両方を経験しなくては知り得ない貴重な話を聞くことができました。この目で実際見てみたいものです。また、毎年日帰りで作業と収穫の2回援農いただくチームの方の中にも今年はイギリス人女性がいらっしゃいました。とても朗らかで笑顔の中心にいるようなマダムでした。ところで、ワールドワイドと言っても皆さん日本語堪能なので、私たちの外国語能力が磨かれることはほぼありません。でも、山梨の田舎町で暮らす私たちにとって、広範囲で活発に活動する皆さんから刺激を受けている毎日です。



韓国人のユンさんは家庭菜園で作った野菜でキムチを作ります



ズンくんトレードマークのベトナム笠は日よけにちょうど良い



今年の援農メンバーにもイギリス人のマダムが



いつもお茶の風景。木陰が涼しくてよいです

家族の様子は... 子供の成長は早いもので、長男は4月に高校に通い始めました。吹奏楽をやるために高校に行っているのではないかと思うほど、ますます熱が入っています。新しい仲間も増えそうなので、吹奏楽コンクール山梨県初の全国大会出場を目指したくさん練習しています。ノーベル生理学・医学賞受賞の大村智博士の後輩になったので、勉強にも力を注いでほしいものです。次男は6年生にしてはガッチリした体つきになり、山登りでは岩場のチェーン登りも何のその...と思いきや「こわい〜」と頂上は断念。一方海でのシュノーケルは冷たい水でもへっちゃら、帰ろうと言ってもいつまでもぷかぷか海に浮かんでいます。まさか彼は海藻なのか!?

園主は腰痛・五十肩と日々格闘中。映画とアニメが楽しみです。園主妻はカゴ編みの体験をしました。素材の太さや作るものの大きさに自在に変化できる籐細工に目からウロコでした。



長男は高校でも吹奏楽青春を謳歌中



次男 大好きシュノーケル



園主 乾徳山腹でおたけび農業ガンバルぞ〜!



園主妻、籐カゴ編み初体験何でも作れる籐にハマリそう